

My town with the sea

海と暮らす

海とともにある暮らし。

海の近くで生きること。それは、ただ場所の話ではありません。ここに生きる理由があって、ここで続けたいと思える時間がある。蒲郡で暮らし、海を舞台に仕事をしている2人の移住者に話を聞きました。

西浦でサップ（スタンドアップパドル）のインストラクターをする山村さん。三重県出身で、20代の頃にカヤックのインストラクターを経験したことをきっかけに、趣味としてサップを始めました。職を転々とした時期もありましたが、「この環境やサップが好きだから続けられている」と話します。

山村さんは、サップを通じて人と海をつなぎ、さらに西浦という場所を通じて人と人をつなげたいと考えています。

「サップの魅力は、日々の喧騒から離れて、波や風を感じながら心をリセットできるところ。海の上で見るサンセットはとてもきれいですよ。」

以前、市内の子どもたちにアンケートをしたところ、約85%が蒲郡の海に入ったことがないと知りました。「海のみちなのに、海が近いだけの存在になってしまっている」と寂しく感じ、子どもたちの意識を変えていく必要があると思ったそうです。自身の生き方のコンセプトを「愛をもって地球と遊ぶ」



サップインストラクター 山村佳史

と語り、遊びや楽しさを通して海に親しむきっかけをつくることを目標にしています。

山村さんは、海と山とまちが調和するこの風景が大好きだと言います。

「波が少なくて穏やかな蒲郡の海は、パドルスポーツにぴったり。いつか西浦といえばパドルスポーツのまちって言われたらうれしいですね」と、未来へ夢を描いています。